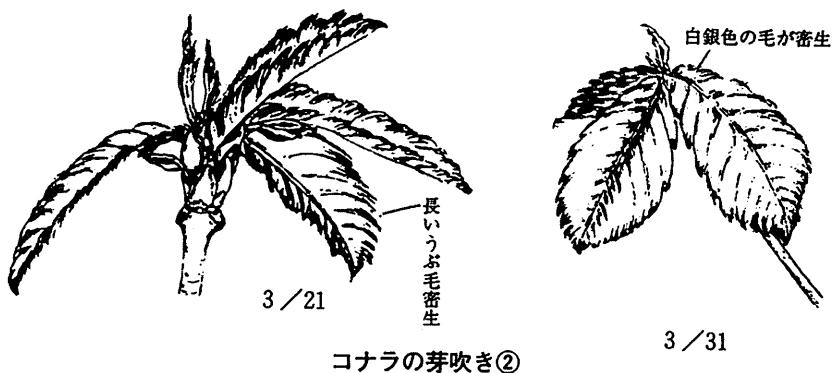


協議会ニュース

81号

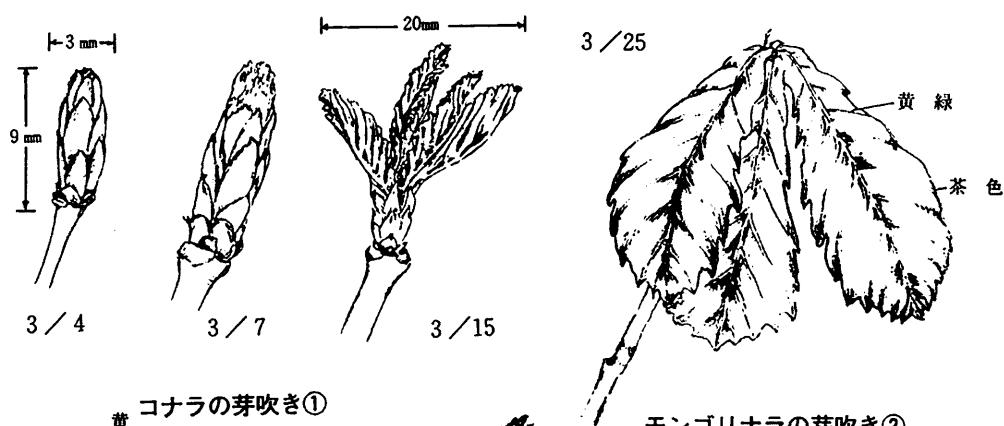
愛知県自然観察指導員連絡協議会 2002.3



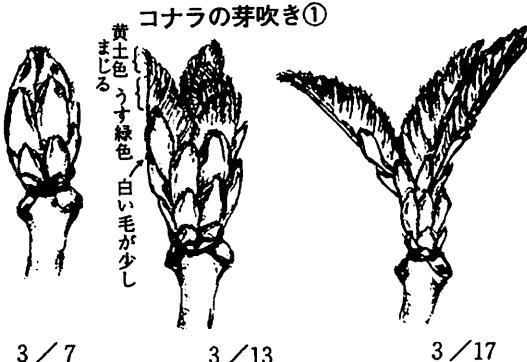
コナラの芽吹き②

3/31

モンゴリナラの芽吹き①



モンゴリナラの芽吹き②



3/7

3/13

3/17

「春の自然観察」から

会員のアンケート結果

組織検討委員会

前回の機関誌送付に際して、会員の皆様にアンケートをお届けしました。御協力ありがとうございました。結果は、次の表のようになりました。協議会運営を時代に合った新しいものに変えていく必要性がよく表れていると思われます。

この結果を基に、協議会の組織体制や運営を見直していくことになりますが、一度に大幅な改革は困難ですので、徐々に新しい体制を整えていくこととし、その進み方は順次お知らせしていくこととします。

アンケート回答結果

	回答数	回答率
尾張	42	
名古屋	40	
知多	56	
西三河	9	
東三河	20	
奥三河	4	
未所属	8	
総数	179	37.4%
会員総数	479	

協議会に対するその他の意見

項目	事務所(拠点)を作る	協議会維持のための事務	役員を公募して選出する
回答数	28	25	9
回答率	15.6%	14.0%	5.0%

協議会に対する期待の仕方の各個人の温度差

項目	NPOになって積極的に活動する団体となる	身近な自然を守る圧力団体となる	身近な自然を守る団体となる	いろんな観察会が集まった緩やかな団体となる	趣味の会となる	合計
回答数	21	17	106	38	19	201
回答率	11.7%	9.5%	59.2%	21.2%	10.6%	112.3%

協議会に期待すること

項目	ステップアップ研修会を催す	データの取り方と報告書のまとめ方研修(資料として提示できるようにするために)	自然観察に関する相談窓口(自然観察指導員の活動内容を含めて)	観察会で使える資料の作成	関係する団体とのネットワーク作り	行政情報の収集と発信
回答数	69	30	79	55	74	37
回答率	38.5%	16.8%	44.1%	30.7%	41.3%	20.7%

項目	自然保護に関するリアルタイムの情報をニュースとして発行	県下の自然に関するデータの収集と発信	協議会の存在のPR	自然に関する情報発信	協議会のホームページの作成	協議会のパンフレット作成
回答数	50	77	29	76	43	18
回答率	27.9%	43.0%	16.2%	42.5%	24.0%	10.1%

項目	会員の活動に対する資金援助の窓口	学校教育における総合学習の講師派遣	活動の発表会の実施	会員相互の親睦会を開く
回答数	16	61	22	32
回答率	8.9%	34.1%	12.3%	17.9%

協議会に対して出来ること

項目	1 定例活動の企画・運営関係	2 イベントの実行委員	3 機関誌の編集	4 機関誌の原稿依頼・受け取り	5 機関誌の校正	6 機関誌の発送	7 ネーチャーゲーム	8 ポスター・チラシ作り	9 季節の食に関すること
回答数	16	18	3	4	6	18	19	4	17
回答率	8.9%	10.1%	1.7%	2.2%	3.4%	10.1%	10.6%	2.2%	9.5%

10 PR・広報	11 力仕事	12 自然観察会のリーダー	13 自然観察会のサポート	14 冊子原稿の執筆	15 自然に関する調査	16 行政、他団体、企業等の対外交渉の窓口	17 自然に関する野外調査	18 県下の自然に関するデータ収集と発信
9	17	34	104	16	51	7	68	16
5.0%	9.5%	19.0%	58.1%	8.9%	28.5%	3.9%	38.0%	8.9%

19 自然に関する情報発信	20 協議会のホームページの作成	21 協議会のパンフレットの作成	22 会員相互の親睦会を開く	23 会計	24 保険の手続き	25 観察会等に対する資金援助の窓口	26 事務所(拠点)を作る	27 生物のデータ処理システムの作成
17	4	2	6	1	1	0	3	1
9.5%	2.2%	1.1%	3.4%	0.6%	0.6%	0.0%	1.7%	0.6%

28 生物データ等の入力	29 生物データ等の整理	30 自然観察に関する相談窓口	31 学校教育における総合学習の講師	32 行政情報の収集	33 行政情報の発信	34 観察会で使える資料の作成	35 クラフトの作成	36 イラストの作成
9	10	16	32	4	3	15	15	10
5.0%	5.6%	8.9%	17.9%	2.2%	1.7%	8.4%	8.4%	5.6%

これから環境教育

(篠田陽作 名古屋支部)

☆環境教育とは？

環境教育がどんなもので、何のために行われるかについてお話しする前に、環境教育の目的についてお話をしたいと思います。1975年に国際環境教育会議で採択された「ベオグラード憲章」に次のように述べられています。

「環境とそれに関わる問題に気づき、関心を持つとともに、直面する問題を解決したり、新しい問題の発生を未然に防止するために、個人および社会の集団として必要な、知識、技術、態度、意欲、実行力等を身につけた人々を育てること。」

以上のように環境教育とは地球環境を守ることの出来る人を育てる為の具体的な教育の仕組みであり、その活動が環境教育なのです。

☆ ベオグラード憲章における 環境教育の目標

① 関心

環境に関わる問題に対する関心と感受性を身につける。

② 知識

すべての環境とそれに関わる問題および人間の環境に対する厳しい責任や使命についての基本的な理解を身につける。

③ 態度

環境や社会的な価値に対する強い感

受性、環境の保護と改善に積極的に取り組む意欲と態度を身につける。

④ 技能

環境問題を解決するための技能を身につける。

⑤ 評価能力

環境の状況の測定や環境プログラムを生態学的、政治的、経済的、社会的、美的などさまざまな角度から評価出来る能力。

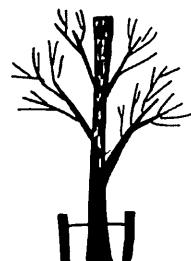
⑥ 参加

環境問題を解決するための行動を確実にするために、自ら参加することが出来る認識や責任の意識を高める。

以上のような環境教育に対する基本的な合意や目的が25年前に決められていたのですが、我が国ではやっと多くの行政や教育の場面で取り組みが始まったばかりです。これからは速やかに行動し、環境教育が多くの場面で取り組まれ、環境意識を持った市民が育つことが望まれます。

☆ これからの環境教育

とかく環境教育と言えば「ワークショップ」とかゲームが中心に考えられがちですが、私は「ベオグラード憲章」の最初に書かれている「環境とそれに関わる問題に気づき、関心を持つ」の部分の



環境に対する「感性」を養うことが大切と考えています。環境教育とは、まず感性、つまり気づくことから始まると考えています。その為に子ども達には自分の行動がすべて環境とつながっていること、そして私たちの行動や日常生活が環境を破壊し、多くの環境問題を引き起こしていることに気づいてもらうことだ大切

だと考えています。

そして、それを解決する為には、私たちがライフスタイルや日常の暮らしを変えることから始めなければならないことに気づいてもらうことを環境教育の最初の目的としています。すべてがそこから始まると思っています。

生物季節の状況 (名古屋)

	H 12年	H 11年	H 10年
ウメ開花	1/26 (-16)	2/17 (+ 5)	1/15 (-37)
サクラ開花	4/ .3 (+ 4)	3/24 (- 5)	3/22 (- 8)
アジサイ開花	6/12 (+ 1)	6/ 7 (- 4)	5/28 (-14)
ウグイス初鳴	3/23 (+20)	3/10 (+ 7)	2/25 (- 6)
アブラゼミ初鳴	7/11 (- 3)	7/17 (+ 3)	7/ 4 (-10)

()内は、平年との差(+は遅い)

「気象年鑑」



愛知県の土地利用状況

単位 : ha

	H 12年	差	H 9年	差	H 6年
森林	221,023	-494	221,517	-794	222,311
農用地	85,700	-1,700	87,400	-1,613	89,013
水面・河川	24,200	-111	24,311	-95	24,406
道路	44,014	947	43,067	955	42,112
宅地	87,140	2,056	85,084	2,519	82,565
その他	53,319	-529	53,848	-559	54,407
県面積	515,396	169	515,227	413	514,814

「土地に関する統計年鑑」(愛知県)

通常総会に参加しよう

相地満（名古屋支部）

協議会ニュースが届くとなんだかホッとする。見るともう80号である。途中までしっかり保存しているが、ここ数年、放逸してしまっている。何とか整理していきたい。

昨年からどうも協議会がおもわしくない。聞くところによると随分前から暗礁に乗り上げている状態だという。反面、いろいろなところで、「自然観察指導員の〇〇ですけど…。」といった自己紹介をよく聞く。自然観察指導員はいたるところで活躍しているのだ。先日もあるフォーラムで自然観察指導員の方から声をかけられた。「センス・オブ・ワンダーの上映運動のときには、カーソンの話を聞かせていただいて……。」と親しげに話してください。そんなとき、私たちの会が、ある値打ちのある事柄に立ち向かい、日々こころを同じくしているのだという連帯感と共に、「お互いにこころを痛め、苦労をしていますね。」といったある一種独特のいたわりの情を強く感じる。愛すべき自然や生き物達の行く末を慮り、こころを痛めているもの達が共通に感じるアイデンティティをこの会は確かに持っているのだ。

しかし、そういった人々の集まりである協議会がうまくいかないというのはどうしてだろう。会員数が多くなって事務等が容易ならざるものになってきた、ということがあるのかもしれない。しかし、それはみんなで助け合う体制を作ればよいのだ、それよりもなによりも気に

なるのだが、しばらく指導員として一生懸命だった人が、いつのまにか、何かの援助を受けたり、他の資格をとったりして、いっぽしの専門家になったつもりで喜んでいるのを見ることがよくあるということである。そういう人達の話は、間違いや知識の切り売りが多くて実にくだらない。地味なフィールドワークからつかんだものを語ることができない。しかし、行政などとの援助交際をうまく使い、上手に世の中を渡っていけるかのようそぶりで幅を利かせていくのである。悲しいことである。今に言うパートナーシップの確立とは別のところで彼等は、けなげにもなけなしのお金をもらっては喜び、少しは小使いが稼げると思っているのである。自然観察指導員は、そういった高尚な趣味を得るために单なる足がかりでしかなかったのだ。そうなれば、今がよければそれでよいのだろう。もちろん活動のための資金を何かで生み出すということは大切なことである。

もうひとつ気になるものの一つに支部というものがある。指導員の数が多くなったので、支部を作つて……。ということになったのだろうと思うが、これが協議会の無用論までび出す結果になつということは誰が予測しただろうか。



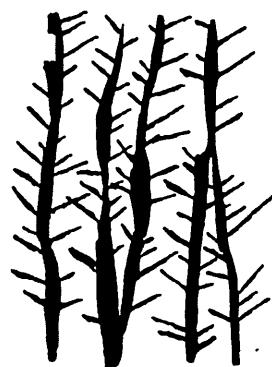
私は、以前から協議会には団体加盟と個人加盟の両立を求めてきた。支部総会には出るが、協議会の総会に出ないという人は、支部という団体として加盟していると考えれば分かりやすい。○○地方自然観察会といった独自の会が、団体として協議会に加盟し、独自の活動をする。それ以外に諸活動をしていて、その活動を自然観察指導員の仕事と考えている人は、個人、あるいはその方がたがつくれっている会として（もちろん指導員が中心になっていることが必須の条件であることは言うまでもないが。）協議会に加盟すればよいのではないだろうか。そうすれば事務的なことは至極簡単になっていくし、協議会に余力があれば、独自の活動を展開することができる。独自の活動を展開するまでもなく、協議会は、資金を集め、機関誌を発行し、参加団体・個人への情報交換をしていけば、それでよいと思っているのだが、いずれにしても会のあり方についてそういう話しあいをする場が総会なのだと思う。

年に一度のこと、お互いに語り合うべきことは多いのではないか。私などはあまり発言することを好まないタイプなのだが、話し合っているのを聞くことは好きである。通常総会に集まろう。そりは指導員一人一人のささやかな義務であると思う。支部の総会に集まって見えるからそれでよいと思ってみえる方はそれでもよいと思う。その場合支部として協議会に団体加盟をしているのだという自覚を忘れないようにして欲しい。支部の総会に出席されない方は、是非、総会に参加して欲しい。そうすることが自然観察指導員の活動の幅を広げ、時代に貢献していくことにつながっていくと思う。

付記・機関誌の原稿について一言

機関誌は、編集されている人の意図があるので何とも言えないが、書式設定（投稿規定「を定めておいて送られてきたものを貼り付け、余白や不都合な部分を編集する程度のものでよいのではないですか。そうすれば、手間も省けるし、打ち直す際の誤記も防げると思います。

例を挙げれば、79号の「通常総会に参加して」の文章のうち、私が送ったものには、「総会に出れば……元気が出てきて、これから活動のイメージが豊に……」と書いているものが、「総会に出れば……現金が出てきて……」になっていたのにはさすがにびっくりしました。これを読まれた方は、なんという現金なやつだと思われたでしょう。訂正の手間を取らせるつもりはありませんが、こういった誤記をさけるためにも投稿規定を定めておいたほうがよいように思います。



相羽福松さんのこと

降幡光宏（知多支部）

（本文は、2002年2月の会報誌より転載）

知多支部の設立発起人8名の一人であった相羽福松さんが02年1月31日に突然逝去されました。

2月3日の通夜と4日の告別式には知多支部の会員が30名ほど御参りしてください、最後のお別れをしました。相羽さんについては、知多支部で追悼文集をまとめているところですので、個人的な関係については、追悼の言葉をその文集に投稿することとして、ここでは相羽さんの知多支部とのかかわりについて、思い出を述べてみたいと思います。

支部の設立当時から相羽さんの支えは大きく、設立総会で、「規約とか会費のことは後回しにして、まずフィールドに出て自然観察をしよう」と提案されました。設立総会は、82.5.16に「半田市青年の家」で行いました。この時、会終了後「ちょうどいい機会だから、外に出て自然観察をしよう」と言って、「半田市青年の家」の隣を流れている阿久比川の土手に行き、植物と干潟に来ているシギ・チドリの観察会を行ったことを思い出します。野外観察第一で、この年の秋に美浜町のオレンジラインを弁当持ちでハ

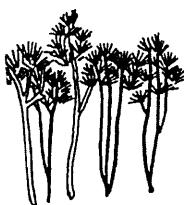
イキングを兼ねて会員研修を行いました。その時、担当講師として植物の解説をしてくれました。

相羽さんの高等植物分類は、知多地方

随一で、右に出る人はいません。よつて、道中で質問した植物については100パーセント解説をしていただきました。知多地方の会員の植物に関する知識のレベルを引き上げてくださったのは相羽さんだと思います。

支部発足当時は、野外で年に4～5回、仲間で会員研修をすることが中心でした。2年目に愛知県自然保護課が一般募集の自然観察会を美浜町の野間で行うことが計画され、そのお手伝いをすることになりました。企画運営の中心メンバーになってくださったのは相羽さんで、無事に初めて会を実施できました。その後しばらく、一般募集による自然観察会は、美浜町野間で行う自然保護課主催のものだけでした。彼は、「自分たちの仲間が研修の名のもとに自然に親しんでいるだけでは会の趣旨に合わない」と言われ、早急に一般募集の自然観察会を実施するよう提案されました。皆も望んでいたので、支部主催の一般募集による自然観察会を計画することになりました。

植物中心の自然観察会の案内リーダーは、ほとんど相羽さんが買って出てくださいました。さらに、支部主催の一般募集による自然観察会の実施回数が増える中、いち早く、地元武豊町での定例自然観察会を実施されました。それが発展し、現在では知多地方の各市町単位での自然観察会が開催されるようになりました。

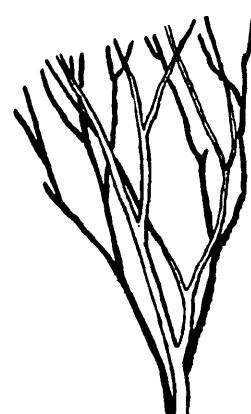


皆様の中には、会の行事にはほとんど参加されない方もみえると思います。また、行事の担当リーダーをまだ一度もしたことがない方もみうると思います。たぶん相羽さんは、知多地方で一番行事に参加され、一番担当リーダーを引き受けた人だと思います。たくさんの行事に出掛けてきていただき、駆け出しの担当リーダーをどれほど援助し、アドバイスしていただいたか分かりません。とにかく彼は、「俺は自然が好きだから」ということでした。自然が好きだから、知多支部を愛していたから、行事計画を立てる時はよく発言され、また、総会でもよく発言されました。発言すれば、当然役目をたくさん受けることになります。相羽さんは、私に「会は会しなくてはいけない」「会して決しなくてはいけない」「決したら実行しなくてはいけない」と言い、「会員は、スポンサーでも評論家でもない。あくまでも自分たちの会である」と。

相羽さんがこの会に加入する前は、植物オンリーだったと言います・自然保護協会の自然観察指導員講習会を受講してすら、「自然全体に目がいくようになり、生き物のつながりに興味を持った」と言っていました。知多は、海に囲まれているから、海辺の生き物を観察しようということで、会の設立当初、春に海辺の生物の研修を行いました。新しい分野で、生き物についての知識がすぐ向上するわけがありません。南知多ビーチランドが開園して間もないころで、時々皆で顔を出しては、海の生物の分類と生態を教えていただきました。相羽さんは武豊在住で、南知多チーチランドには近いので、さらに顔を出しては、生物の名前な

どを聞いていたようです。その他、自然観察会のメニューとして取り入れるために、ネーチャーゲームの初級講習レクリエーション協会の講習を受けて、幅広く力量を高める努力をしていました。また、自然物を利用した遊びを行っての会が豊橋市にあるとのことで、時々豊橋まで通って習得し、自然観察会の中で披露していました。

ここ5、6年は昆虫に凝り、岐阜にある名和昆虫館まで足を伸ばして、昆虫の勉強をされました。そして、灯火に集まる昆虫の観察の時やペイトラップを設置したときは、「裕君、アオドウガネ、ゲット、ゲット」などといって子どもたちと虫集めに興じていた相羽さんが目に浮かびます。今まで集めた昆虫はすべて同定し、きちんと標本として残されています。最近、生涯教育ということが言われるので、相羽さんに「生涯教育に挑戦していますね」と声をかけたら、「教育という言葉は好きでない」と言い、「より楽しみを増やすための手段であるから。遊び、遊び」と。



事務局から

[行事結果]

★ 理事会

〔期日〕平成14年3月10日(日)

〔場所〕名古屋市教育館 (出席9名)

1 平成13年度事業の状況及び決算

- ・会費の未納者が非常に多い。特に支部経由で納入することになっているが、一部の支部ではその機能が十分果たされていない。
- ・平成14年度の会費は、6月末までに協議会へ届くようにする。

2 会員のアンケート結果と今後の対

- ・組織検討委員長の松尾さんから、アンケート結果の報告がある。会員の要望は多岐にわたるが、まずできることからするしかないだろう。アンケートでいろいろな手助けが出来ると書いていただいているから、そうした人達の協力を求めて、事務局体制をはっきりさせることから始めてはどうか。
- ・現在の事務局から、14年度は他の人に引き継ぎたいとの意向が出され、アンケート結果から協力してもらえる人を何人か選定し、事務局グループを作って、14年度中に、徐々に引き継ぐようにしていくこととする。

- ・事務局が時々集まって、事務の調整や作業をする場所があると良いが、これは今後の懸案として、とりあえずは月1度位集まっていく方法をとる。
- ・会計は、口座が県庁の銀行・郵便局を利用しているため、会員である県の職員に依頼するのが良いが、会費納入整

理など、やはり複数の担当がいる。

- ・機関誌の定期発行がないと、行事の参加者も限られ、会員への情報提供にも欠けるため、この定期発行に努めることが大切である。
- ・機関誌は、ニュースレター的なものとし、なるべく毎月発行とする。作成したものは、発送担当を数人定めてそこから送る方法等を考える。
- ・その他の事業について、14年度は動き出している「ふるさと自然観察会」などに限定するが、事務局の体制が整う中で、適宜始めていく。

3 理事について

- ・会長・副会長・監事の任期は3年で、もう1年あるので、次年度の総会で、組織の変更とともに提案する。
- ・14年度の理事は、支部長のほかは、実際に事業をやってもらえそうな人に限定し、その任期は、1年とする。
- ・理事は、必要において年度中でも追加変更出来ることとし、当面次の人に依頼する。

青木雅夫、石田晴子、鬼頭 弘。

佐藤国彦、降幡光宏、松尾 初
山田千宏

4 通常総会について

- ・通常総会の議案は、事業実績・決算・事業計画・予算とし。計画は最低限のものを出すこととする。
- ・総会終了後は、アンケートの結果を示し、自由な意見交換会とする。

[事務連絡]

◎ 保険の加入について

支部承認の定例自然観察会は、協議会で一括障害保険に加入しています。3月末に、14年度の保険契約を染ますので、希望がありましたら、至急事務局へご連絡ください。

保険料は、参加者1人当たり50円で、うち10円は、協議会から補助しますので、結果1人40円となります。保険料は、来年の3月末に参加者実績に応じて精算します。

観察会で怪我をされた場合は、通院・入院の日数に応じて一定の保険金が支払われます。手続きは、そんなに難しくありません。虫刺され等も対象となりますが、注意したいのは、有毒植物等を食べたようなものは対象となりません。

なお、支部主催の観察会については、保険料は、協議会負担としますので、計画のみお知らせください。

また、自然観察指導員の登録を毎年続けている方は、本人の障害保険と、関連する損害賠償保険がかかっています。御質問があれば事務局へご連絡ください。

◎ 協議会購入の冊子について

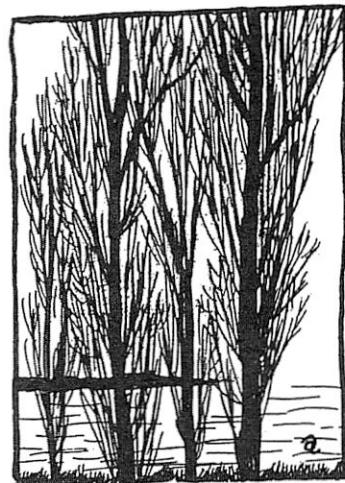
県が調査している、レッドデータブックの植物編と動物編（4月頃発行予定）報告書を購入します。これは、会員にのみ1,800円（予定）で配布するものですので、希望がありましたら、事務局へ申し出てください。事務局へ到着次第お送りいたします。代金は、切手（1枚200円以下）でも結構です。

◎ 会費の納入について

協議会の会費は、支部経由（奥三河支部を除く）で、お支払いいただいてますが、6月末までに協議会へ届くように手続きをお願いします。

また、2～3年分未納の方も多くありますが、お心当たりの方は、会の郵便局口座（00890-5-38820 愛知県自然観察指導員連絡協議会）へ振り込んで下さい。会費は、年額3,000円です。

なお、平成12年度以前が未納の方は会員を継続される御意思がないものとして扱わせていただく予定ですので、勝手ですがよろしくお願いします。



行 事 案 内

★ 協議会通常総会

- 期日：平成14年3月24日（日）：
- 場所：愛知県産業貿易館 本館第1教室（B1） 一 名古屋市中区－
(地下鉄名城線「市役所」駅下車、南西へ徒歩10分)
- 議案：平成13年度事業報告及び決算、平成14年度事業計画及び予算)
- 総会終了後、意見交換会（その後希望者で懇親会の予定）

★ 支部の20周年記念行事

- 次のような計画が進められていますので、御予定ください。（詳細未定）
- 知多支部：平成14年6月8～9日（土日）
 - 名古屋支部：平成14年9月23日（休） 市農業センター

◆ 編集後記 ◆

本号の記事で、相他さんから、機関誌は丁寧に打ち直さなくても、投稿した人の原稿をそのまま載せるようにするほうが誤りも少なくなるとの意見がありました。（「元気」と「現金」の間違いは、ワープロ等に有り得るミスですが、投稿した人には誠に申し訳ない過ちです）

機関誌については、協議会の発足当時から力を入れており、初めの頃は発行の都度編集会議を行って、編集長と事務局が口論を交わしたりしたほどでした。その後も、編集者は変わりましたが、会員に届く機関誌は、体裁、内容ともに充実させていきたいという思い入れが続いていたように思います。そのために手間のかかるやり方が続いた訳です。しかし、機関誌は、協議会の事業を写す鏡ですので、体裁は良くなくとも、事業が活発であれば自ずと充実していくでしょう。

平成14年度からは、事務局のあり方

— 目 次 —

◦ 会員アンケート結果	1
◦ これからの環境教育 (篠田陽作)	3
◦ 通常総会に出席しよう (相地 満)	5
◦ 相羽福松さんのこと (降幡光宏)	7
◦ 事務局から	9

を大きく変えたいと思っていますので、それに伴って、機関誌についても、新たな編集体制と内容に変えていくことになります。パソコン・Eメールの時代に対応した編集体制に変っていく必要も生じています。御協力願える方は、事務局までご連絡ください。